

多良間村 防災マップ

地震

津波

大雨

台風

高潮

防災情報の流れ

村が避難情報を発令する前でも、危険を感じたら自主的に避難してください。警戒レベル5の状況では災害が発生して避難できなくなります。警戒レベル3や4の段階で早めに避難しましょう。

警戒レベル	状況	住民が取るべき行動	行動を促す情報
5	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保※1

<警戒レベル4までに必ず避難!>

4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示※3
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難※2	高齢者等避難

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではない
 ※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人にも必要に応じて、普段の行動を見合わせたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングである
 ※3 警戒レベル対象地域の住民は、速やかに危険な場所から避難するタイミングである

家族での備え

災害はいつどこで起きるのか予想がたいものです。いざというときの家族の行動、指定避難所等への避難方法、連絡方法などを日ごろから家族でよく話し合っておきましょう。その際、非常持ち出し品の点検も全員で行いましょう。

◆非常持ち出し品リスト

避難するときにまず最初に持ち出すものです。リュックサックなどに入れて保管します。必要なものを動きやすい量だけ準備しましょう。

衣類

- ヘルメット・防災ずきん □ 手袋・軍手 □ 雨具 □ 下着・靴下 □ タオル防災用品
- 携帯ラジオ □ 懐中電灯(できれば1人に1つ) □ 予備の電池
- 携帯電話の充電器・バッテリー □ ポリ袋 □ ホイッスル □ マスク

救急医薬品

- 常備薬(持病をお持ちの方は病院から処方された薬) □ 簡易トイレ □ ティッシュ
- ウェットティッシュ □ 簡単な救急セット(ばんそうこう、包帯、消毒液など)

貴重品

- 現金(小銭を含む) □ 健康保険証・免許証(コピー可) □ 通帳・印鑑 □ ハザードマップ

オリジナルマップの作成

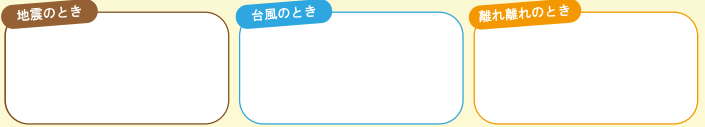
家族で話し合ったことなどもふまえ、自宅から避難場所等までの経路や危ない場所などを記載したオリジナルマップを作成し、家族で共有しましょう。

家族で話し合っておきたいこと

家族で話し合ったら口にチェックしましょう。

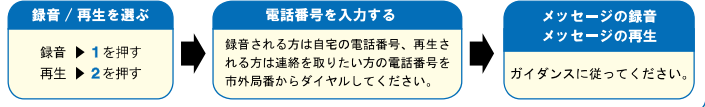
- 自宅の周りで、災害時に危険と思われる場所はどこか
- 自宅の被害対策(水道、電気、ガス、トイレ、ガラス飛散)
- 家の中でどこが一番安全か(家具の少ないスペースはどこ?)
- 救急医療品、住用火災報知器や消火器などを備えているか
- 幼児や高齢者の面倒は誰がみるのか
- 指定避難所等、避難経路をしっかりとっているか
- 避難するとき、誰が何をもち出すのか、非常持ち出し袋はどこに置くか
- 家族間の連絡方法と最終的に出会う場所が分っているか
- 昼の場合と夜の場合の役割分担をはっきり決めているか
- 地域(自主防災組織など)の防災活動に参加しているか

◆災害時の集合場所 災害時に、家族で避難する場所を決めましょう。(指定緊急避難場所や指定避難所など)



災害用伝言ダイヤル

災害用伝言ダイヤルは、地震、台風などの災害の発生により、被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始される「声の伝言板」です。※ガイダンスは日本語のみに対応しています。



災害情報取得

国土交通省防災情報提供センター
日本全土の各種災害に関する情報を、日本語、英語で提供しています。

ハイサイ防災で〜びる
沖縄県内の各種災害に関する情報を、日本語、英語、中国語、韓国語で提供しています。

緊急連絡先

名称	住所	電話番号
村行政機関	多良間村災害対策本部	字仲筋9-2 79-2011
避難場所等	多良間村コミュニティ施設	字仲筋8-9 79-2013
	多良間小学校	字仲筋10-8 79-2212
	多良間中学校	字塩川576 79-2213
	多良間村地域振興拠点施設	字塩川445-1 79-2828
医療機関	多良間診療所	字塩川162-3 79-2101

多良間村 多良間村役場 千906-0692 沖縄県宮古郡多良間村字仲筋99-2 TEL: 0980-79-2011

地震とは

地球は、プレートと呼ばれる厚さ数十kmの岩盤で覆われています。プレートは年に数cmくらいの速さで動いており、これが地震を発生させるエネルギーとなって震源の分布により3タイプに分けられます。

1 陸域の浅い地震

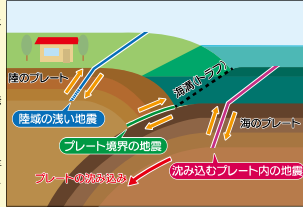
直下型の地震で、「活断層型地震」とも呼ばれ、プレート境界の地震に比べ規模は小さいですが、居住地域に近いところで発生するため、大きな被害となることがあります。

2 プレート境界の地震

太平洋岸のプレート境界で発生する地震で、「海溝型地震」とも呼ばれ、発生源が海底下の浅いところにあるため津波をともなう場合があります。

3 沈み込むプレート内の地震

海洋プレートの内部で発生する地震で、「スラブ内地震」とも呼ばれ、海洋プレートが下に沈み込んでいる部分の深部が破壊されることにより発生します。



地震が起きたら1分以内の行動

グラツキたら**地震発生!**

沿岸部は津波のおそれがあるので**高台に避難!**

命を守る

- 落ち着いて、自分の身を守る
- ドアを開けて、逃げ道を確保する
- ブロック塀には近づかない

家族を守る

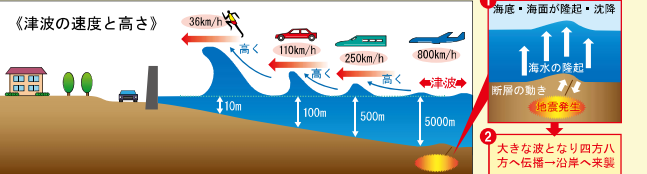
- 家族の安全を確認
- 余震に注意
- 火の元を確認
- 初期消火
- 足をケガしないように靴をはく
- 必需品を手元に用意する

地域を守る

- 近所所の安全を確認
- ラジオなどで情報を確認
- 電気のブレーカーを切る
- ガスの元栓を閉める
- 家屋倒壊などのおそれがあれば避難する

津波とは

海底下で大きな地震が発生すると、海底が隆起もしくは沈降します。これにともなって海面が変動し、大きな波となって伝播するものが津波です。津波は、水深が深いほど早く、浅くなるほど速度が遅くなるため、津波が陸地に近づくと、後から来る波が前の波に追いつき、波高が高くなります。



◆避難の心得

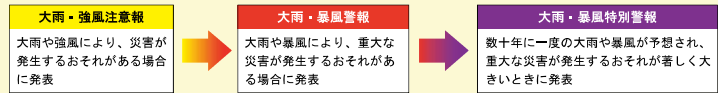
沿岸部で地震を感じたら、津波到達時間にこだわることなく、すみやかに避難することが第一です。いち早く状況を把握し、早めの避難を心がけてください。避難の際は、海と反対方向(高い方向)に避難して海岸線と平行となる横方向や海の方へへの避難は避けましょう。



大雨・暴風災害

◆大雨注意報・警報・特別警報、強風注意報、暴風警報、特別警報

大雨や強風による災害の発生が予想された場合、その災害の重大さに応じて様々な警報が沖縄気象台から発表されます。日ごろから避難場所等や避難経路を確認し、最新の情報に注意して、早め早めの行動を心がけましょう。



◆大雨・暴風による被害が想定されるときは

風水害はある程度発生を予測することがあります。天気予報やニュースに注意し、危険がせまったら早めに対応しましょう。台風などにより、雨風が強まってきたら、テレビやラジオ、インターネットで発表される気象庁からの大雨注意報・警報・特別警報などを確認し、どのような行動をとるべきかを判断しましょう。

天気の急変に注意し、危険を感じたらすぐに身の安全を図ってください

- 空の状態: 「急に真っ黒な雲が近づいてきた」「雷鳴が聞こえる」「稲光が見えた」
- 看板: 「危険区域には立ち入らない」などの表現がある
- 警報装置: サイレンの音が聞こえる
- 警報や注意報: 雷注意報、大雨や洪水の警報・注意報が出ている
- 天気予報: 「大気の状態が不安定」「雷」「天気の急変」などの表現がある
- レーダー等の観測情報(携帯電話などで入手): 周辺や上流で雨が降っている

高潮とは

高潮は、台風や低気圧の接近により、海水面が平常時よりも高くなる現象で、「反気低下による吸い上げ効果」と「強風による吹き寄せ効果」が原因となって起こります。また、満潮に重なる広い範囲で浸水するおそれがあります。

◆高潮注意報・警報・特別警報

高潮による災害の発生が予想される場合は、「高潮注意報」「高潮警報」「高潮特別警報」を発表します。台風の接近時には、潮位の上昇より先に暴風が吹き始めるため、野外への立退き避難が困難になります。高潮の発生には十分に警戒し、暴風域に入る前に早めに避難するようにしましょう。

防災メモ ～要配慮者への支援～

一般的に高齢者や障がい者、乳幼児や妊産婦、日本語で十分に理解できない外国人などのことを要配慮者と言います。要配慮者の方が避難する際は地域で協力しあいながら、安否の確認、指定避難所等への移動、避難生活を支援しましょう。

高齢者・病人

- おんがして安全な場所まで避難する。
- 複数の介助者で対応する。

目の不自由な方

- 声をかけ、情報を伝える。
- 誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽く持って、半歩手前をゆっくり歩く。

肢体の不自由な方(車椅子)

- 階段では2人以上が必要。上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。
- 介助者が1人の場合、ひもなどを用意し、おんがして避難する。

耳の不自由な方

- 話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにする。
- 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。

